

# あすなろ鯉のぼりは、 空を泳ぐことができるか？



4月も半ば、鯉のぼりが、家々の庭で気持ちよさそうに泳いでいます。園バスに乗りながら、目する子どもたち。そんなある日、年長すみれさんが職員室にやって来ます。「こいのぼり飾るから出して～」

「そっか、鯉のぼり、探しておくから、明日取りにおいで」と伝えます。**えっ？先生が、園庭に鯉のぼり上げておくんじゃないの？** はい、それが普通の幼稚園です。

でも見てみたいと思いませんか？子どもたちが、どんなふうにして、鯉のぼりを上げるのか？笑笑

**子どもたちの生活の中に、子どもたちが解決すべき課題を、子どもたち自ら見つけ出し、その解決のために考え力を合わせる…それが asunaro style**

まずは、次の朝、忘れずに鯉のぼりを取りに来るのかな？ここからですよ。鯉のぼりは職員室の机の上に、ポールになる物干し竿は、子どもたちの靴箱の上に置いておきました。そのポールに気づいたのが、登園したばかりのT君。スーッと先生の側まで来て「鯉のぼりの棒だと思う…」とつぶやきます。

T君は、こんなところを見てたんだと大人に思わせるくらい、よく状況を見ている子です。でも、気づくだけ。気づいたことから次の行動になかなか出ることができません。

その時も、先生が「そっか、鯉のぼりの棒なの。で、鯉のぼりあった？」と聞いてみました。T君から「えんちょに聞いてみる！」という言葉を引き出したという思いが、先生にはありました。ところが、T君、スーッとすみれの部屋へ行ってしまいました。（まだまだかな～）

ところが、2番バスも園に到着して、しばらくするとやってきました。「エンチョ～鯉のぼりみつかった～？」見ると、あのT君がA君を連れ立って、エンチョの所にやって来たではありませんか！

「みつけておいたよ」と、鯉のぼりの入った大きな箱を2人に手渡しました。二人は意気揚々自慢げに部屋へ戻っていきました。エンチョは思いました。おー！ママさんの取り組みの成果が出ているー！！

悪口ではないですよ。じつは、T君、年中になっても、たとえば「タオルしまった？」と聞くと、しまっていないのに「しまった」と言ったり、自分がしたのに「してない」と言ったり、自分を守るためのウソが止まりません。

残念ながら意欲も弱く、やるべきことが分かっているけど行動にならない…年少の時に、そのことを担任が話しをして、こんなアドバイスをしました。

『ママといっしょにすること』ンンン？

洗濯をいっしょにたたむ、夕食をいっしょに作る、雑巾がけをいっしょにする…そうですねお手伝いです。子どもがうまくできなければ教えてあげたり、手伝ってもらったことを喜んであげたり、いっしょにやりながらいろいろとおしゃべりしたり…

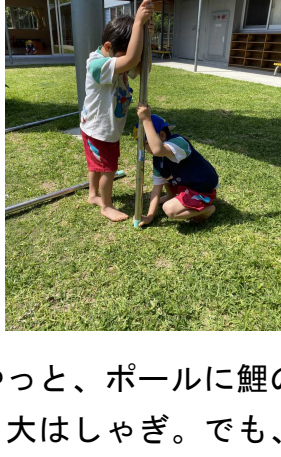
ところが、年長進級近くになって意欲が育っていないことを、ママさんが本当に困ったと感じたのでしょう。『ママといっしょにすること』に取り組んでくれるようになりました。この鯉のぼりでの変化は、その成果です。

**※第一愛着者との愛着関係の成立が自己肯定観の土台です。**

その二人を「おーっ！」という歓声が出迎えます。そして、手分けをして、ホールや外、他の部屋であそんでいるすみれたちを呼び集めてきます。次に、みんなで箱から鯉のぼりを出して、さっそく中庭の原っぱに上げようと、鯉のぼりを持って、さっそうと外階段を上ります。

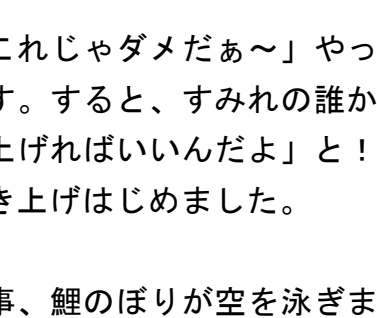
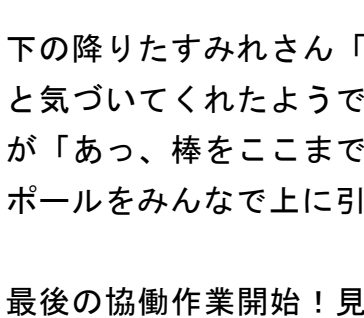


で、そのまま手ずりに鯉のぼりのヒモを縛り始めました。（？）…するとSちゃん「棒がほしいから倉庫に行こう」と先生を誘います。物干しポールが、倉庫にあることをSちゃんは知っていたんですね。でも、こっちにあったと別のすみれさんがポールを運んできてくれました。さて、ここからどうする。



やっと、ポールに鯉のぼりを縛って「できたー！」と大はしゃぎ。でも、鯉のぼりの尻尾が地面に着いてしまっています。それを（なんかへんだなあ～）と感じている子もいるようです。

先生たちも、ここに気づいてほしいと思いながら、手を出したい気持ちを抑えています。そして、階段の上にいるすみれさんに「（階段の上から）下に降りてみんなで見ようよ」と声をかけます。



下の降りたすみれさん「これじゃダメだあ～」やっと気づいてくれたようです。すると、すみれの誰かが「あっ、棒をここまで上げればいいんだよ」と！ポールをみんなで上に引き上げはじめました。

最後の協働作業開始！見事、鯉のぼりが空を泳ぎます。『ヤッター！』満面の笑顔のすみれさんたちに、拍手が起こりました。

